



## IG S日本支部設立10周年を迎えるにあたり

日本支部幹事長、三井石油化学工業㈱

岩崎 高明

月日のたつのは本当に早いものである。「国際ジオテキスタイル学会日本支部」が1984年8月3日に発足して、本年8月には10周年を迎えることとなります。

原稿の執筆を依頼され、改めてこの10年を振り返ると走馬燈のように次から次へといろいろの事が思い出されてきます。それらを会員の皆様に見て頂こうとすると、後から後から書きたいことが拵がり、結局纏まらないものとなってしまいました。そこで思い出の雑感はいつか執筆させて頂くこととし、今回は支部の辿ってきた途を感傷抜きで羅列させて頂くこととします。

GEOTEXTILESに関する国際会議が最初に開催されたのは、1977年の第1回パリ会議です。国内で広くジオテキスタイルに関心が高まったのは1982年8月に米国NEVADAのLAS VEGASで開催された「第2回ジオテキスタイル国際会議」です。会議後、福岡先生の呼び掛けで土質工学会会議室においてジオテキスタイルに関与している者10数名が集まり懇談会が開催されました。

ラスベガスの第2回国際会議の後設立された「国際ジオテキスタイル学会」でアジアから唯一人福岡先生が理事に選出されました。

1983年6月に土質工学会に「ジオテキスタイル研究委員会」が設置され、同年8月30日に第1回の委員会が開催されました。委員長は福岡先生です。この委員会でIG S理事の福岡先生から、委員会の都度、IG Sの情報も伝えて頂きました。また、委員は全員IG Sに入会しました。

1984年6月19～22日にアメリカのデンバーヒルトンホテルで開催されたIG S第2回理事会で日本からの入会者が個人会員27名、団体会員1社と報告され、また日本から学会に約10万円の寄附をしたことに感謝されたとの事でした。この会議で福岡理事は日本支部の結成にあたり、規則を作る必要があるので理事会の意見を聞かせて欲しいと発言されたところ、逆に日本で模範を作ってくれと依頼され、福岡理事が素案を作って会長に示したところ賛成とのことでした。

帰国されてこのお話を聞き、1984年7月5日に日本支部規則の原案を作り7月20日に完成させました。

1984年8月3日に国際ジオテキスタイル学会の第1号の支部(Chapter)として日本支部が発足しました。8月31日に巻内先生と岩崎で土質工学会山川事務局長にIG S日本支部設立を説明し、IG S日本支部事務局を土質学会内に置く事を請願し、了承が得られました。

以降の日本支部の主なできごとを表-1に、日本支部主催の行事について表-2にまとめました。

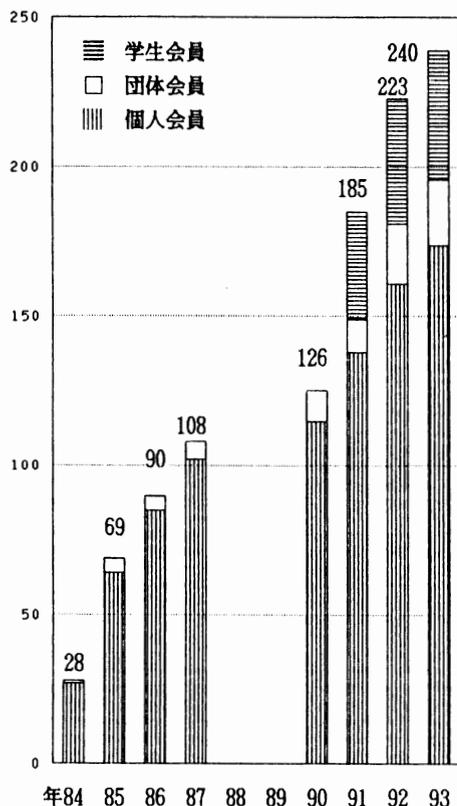
日本支部会員数の推移については図-1に示します。IG S本部発行のIG S NEWSは1985年1月にVol.1、No.1が発行されました。その1頁目を図-2に載せました。Ch. Schaerer会長が巻頭言を書きます。

表-1 J C I G Sの主なできごと

年	月	日	内 容
1984	8	3	I G S日本支部設立、支部長 福岡国際理事
1985	12	12-13	I G S理事会で日本支部が正式に承認された
1985	12	5	第1回 日本支部総会開催、以後毎年1回の総会を開催
1986	4	7-11	オーストリーのウィーンで第3回I G S国際会議開催 日本より30名出席
1989	3	8-10	舗装のリフレクションクラックコンファレンスがベルギーで開催 日本より30名参加 発表日本 3編
	3	13-15	土質工学会主催（国際）第1回凍上シンポジウムがフィンランドで開催 日本からI G S会員約15名参加
1990	5-6		第4回I G S国際会議がオランダのハーグで開催 I G S日本支部より36名出席（日本50名）

図-1

人 J C I G S会員数の推移



日本支部ニュースは、本部より早く、1984年12月にVol.1、No.1が発刊され、創刊にあたっての巻頭言を福岡支部長がお書きになっています。ニュースの表紙のデザインはその後3回変更され、1992年12月号より現在のスタイルとなりました。これらの変遷を同じく図-2に載せました。各種の行事の思い出の写真も沢山たまりましたので、いつか整理をしなければと考えております。その中から5葉を選んでのせました。ありし日の久楽幹事（当時建設省土木研究所）の写真を見るたびに目頭が熱くなる思いにかられます。

皆様の協力と、I G S日本支部の今後のますますの発展を願い、新しい次の10年に向かって進みたいと念願し、筆を置きます。

表-2 J C I G S主催、協催、シンポジウム、講演会、講習会

年	月	日	内 容	
1986	12	2	第1回J C I G Sシンポジウム (東京)	発表論文数 21
87	12	1	第2回	" " 19
88	12	2	第3回	" " 19
89	12	2	第4回	" " 22
90	12	4	第5回	" " 12
91	12	3	第6回	" " 13
92	12	1	第7回	" " 12
93	12	1	第8回	" " 14
1985	11	15-16	第30回土質工学シンポジウム「ジオテキスタイルを用いた工法」	
	11	14	講演会 講師 Dr. J.P.Giroud	東京
1987	5	13	第1回ジオテキスタイル講習会 講師 6名	東京
	7	19	ジオテキスタイル国際シンポジウム (日本140名、外国30名参加)	京都
	7	28	フランスにおけるジオテキスタイルの現況 講師 Dr. E. Leflalve	東京
	10	6	第2回ジオテキスタイル講習会 講師 6名	大阪
1988	10	5-7	土質工学会主催 IS Kyusyu '88	福岡
	10	11	ジオテキスタイルセミナー 講師 I G S理事	東京
1989	7	10	ジオテキスタイル関連の講演会 講師 3名	東京
1990	3	20	ジオテキスタイル選定要領委員会報告 (土質工学会主催 I G S協催)	東京
	7	12	ジオテキスタイル講習会 講師 Dr. Rigo	東京
	7	25	ジオテキスタイル講習会、I G S会議出席報告	東京
1991	5	8	第1回学生向ジオテキスタイル講習会 講師 福岡支部長	東京
	5	17	第2回 " "	千葉
	4	17	ジオテキスタイル講演会 (アメリカに於けるジオシンセティック)	東京
			講師 福岡	
1992	6	3	土質工学会、I G S、共催、マーサーレクチャー 講師 Rr. Koerner	高知
	6	6	ジオテキスタイル講演会 講師 Pr. R. M. Koerner (ジオシンセティックス廃棄物処分場への利用技術)	東京
	11	6-7	ジオシンセティック国際シンポジウム 講師 各国多数 (東大)	東京
	11	11-13	IS Kyusyu '92地盤の補強に関する国際シンポジウム (161編)	福岡
	11	15	学生会員とのミーティング 講師 D. Cazzuffi	東京
	11	16	第2回ジオテキスタイルに関する東京セミナー 講師 6名	東京
1993	11	10	ジオテキスタイル講演会 (最近の海外事情) 講師 5名	東京

# IGS JCIGS NEWS LETTER

国際ジオテキスタイル学会日本支部  
Japanese Chapter of  
the International Geotextile Society

発行責任者: 福岡正巳 (日本支部長)  
編集担当: 赤木俊允・巻内勝彦  
事務局: 〒101 東京都千代田区  
神田淡路町 2丁目23番地(菅山ビル4階)  
(社団法人)土質工学会内 ☎ 03-251-7661

Dec. 1984 Vol. 1, No. 1 (Ser. No. 1)

巻頭文

## 倉刊に あたつて

日本支部長  
福岡正巳  
(東京理科大学・教授)

本年すなわち1984年に国際ジオテキスタイル学会の日本支部が発足した。この学会の本  
部はスイスに置かれており、ジオテキスタイルに関する技術の交流、普及、ならびに用途  
の拡大などを目的としている。ジオテキスタイルという言葉は新しいのでまだはつきりし  
た定義がなされていない。狭義では不透水性の化学繊維ということになるが、学会では広義  
に解釈して不透水性の布、すなわち、ジオメンブレン、ならびに目のあらい網織で土の補  
強に使う化学材料も含めることにしている。会員のなかには製造に従事する人、販売を受  
け持つ人、およびこれを使う人が含まれている。用途は主として土木工事方面が対象とな  
っているが、コンクリートあるいはアスファルトと併用する場合もある。ジオテキスタイル  
を土木工事に適用することを始めて考えたのは誰かということにははっきりしないが、  
わが国においても約30年前から使用されはじめたことが記録に残されている。以後年々少  
しずつ需要が伸びているが、まだ設計法や試験法もなく、技術者相互の知識交換の機会も  
少なく、また専門的に研究したりコンサルティングをする技術者もほとんどいないという  
現状である。アメリカ、フランス、イギリス、オランダ等ではわが国に比較して進んでい  
るようである。このニュースレターは諸外国の状況を紹介し、さらにまた日本の支部活動  
の模様を会員にお知らせするという目的で発行されるものである。会員各位はこのニュー  
スレターを十分活用していただきたい。



### President of IGS

### Presidential Welcome



Charles Schaefer, the President of IGS, was born in Zurich, Switzerland. He graduated as a Civil Engineer at the Swiss Federal Institute of Technology in 1938 and has been connected with this prestigious institute for much of his career. His career has been primarily concerned with the construction of hydroelectric projects throughout the world and especially of the earth and rock fill dams associated with such projects. He was for many years the Head of the Soil Mechanics Institute of S.F.I.T. He was a founding member of the Swiss National Society for Soil and Rock Mechanics, serving as its president from 1962-65 and being made an honorary member in 1980. He was the first president of the Swiss Association of Geotextile Specialists as he is now the first president of the IGS. He was married to Erica and they have raised 3 children. As a true Swiss he is multilingual, speaking French, German, Spanish and English and quotes as his hobbies hiking, skiing and collecting art. The IGS is indeed fortunate to have so active and experienced a person to guide its first steps.

Dear members, I am very pleased to report that with great verve and without much ado the Officers and the Council have gone about the task of developing our new Society. I would like to thank them and all others who have ventured into the effort to found the Society in a spirit of friendly consensus between manufacturers, contractors, academics, institutes and consultants all with the aim of developing geotextiles and their applications.

With the development of this newsletter, the Officers and Council intend:

- to create a medium for transmitting information between members;
- to disseminate technical news and point out publications in the field of geotextiles;
- to announce regional and national conferences and hopefully to encourage their co-ordination;
- to canvass new members;
- to create a forum for specialist viewpoints or discussion;
- to provide an outlet for our technical committees to publish their findings.

The newsletter will act as a link between our far flung membership and will allow us all to maintain current knowledge of our Society's affairs.

Concerning Society affairs, our financial assets at the end of 1984 were (US) \$11,500. A sum of (US) \$6,000 is included in this figure which stems from the voluntary contributions made after the Las Vegas Conference and which permitted the good start the Society made. I would like to thank most warmly those who contributed so generously.

The Society shows signs of healthy growth. In June of 1984 we still had only 20 paid up members. By December 1984, this had grown to 12 corporate members and 102 individual members and by April 1984 we had 15 corporate members and 194 individual members spread throughout 25 countries. This represents good growth but in fact much of the credit must go to a large Japanese membership who joined as a group in 1984 and who wish to form the first official national chapter of the IGS for Japan and to the Comité Français des Géotextiles et Géomembranes whose

# IGS JCIGS NEWS LETTER

国際ジオテキスタイル学会日本支部  
Japan Chapter of  
the International Geotextile Society  
July, 1987 Vol. 4, No. 1 (Ser. No. 6)

発行責任者: 福岡正巳 IGS日本支部長  
編集担当: 赤木俊允・巻内勝彦・中山晴幸  
事務局: 〒101 東京都千代田区神田淡路町  
2丁目23番地(菅山ビル4階)  
(社)土質工学会内  
03-251-7661

IGS日本支部ニュース  
JCIGS '92, Vol. 8, No. 3

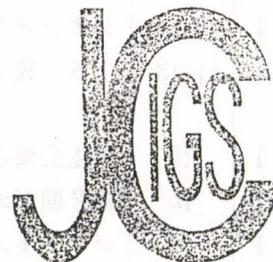
## ジオテキスタイル技術情報

1990 VOL. 6, NO. 1, P.1

# JCIGS NEWS LETTER

国際ジオテキスタイル学会日本支部  
Japan Chapter of  
the International Geotextile Society  
Oct. 1990 Vol. 6, No. 1 (Ser. No. 10)

発行責任者: 福岡正巳 IGS日本支部長  
編集担当: 赤木俊允・巻内勝彦・中山晴幸  
事務局: 〒101 東京都千代田区神田淡路町  
2丁目23番地(菅山ビル)  
(社)土質工学会内  
Tel. 03-251-7661  
Fax. 03-251-6688



J C I G S ' 9 1

## ジオテキスタイル技術情報

(日本支部ニュースVol. 7 No. 1)

1992. 12

国際ジオテキスタイル学会日本支部  
Japan Chapter of the International Geotextile Society

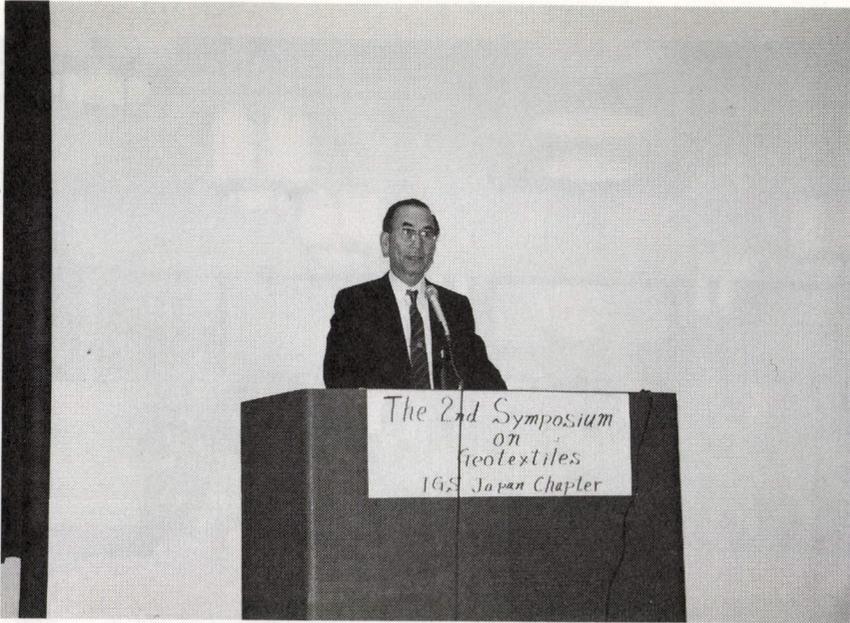
1991年4月1日発行



写-1 第1回ジオテキスタイルに関する東京セミナー後に開かれたIGS理事と日本コーポレートメンバーとの懇親会(1987.5.13 学士会館)



写-2 第2回ジオテキスタイルに関する東京セミナーに出席されたIGS理事・講師の皆様(1992.11.16)



写-3

第2回ジオテキスタイルに関する東京セミナーで挨拶される福岡日本支部長(1992.11.16)



写-4

IGSシンポジウムで司会されたありし日の久楽勝行様



写-5

Post-Vienna Conference (IGS)の会議場(シンガポール)壇上は福岡支部長、中央に立つのは現在IGS理事のDr. S. D. RAMASWAMY